

# 創作ダンスで好成績

## 岡崎女子大・短大と光ヶ丘女子高

岡崎女子大学・岡崎女子短期大学（岡崎市中町）と、光ヶ丘女子高校（同市大西町）のダンス部がこのほど、それぞれ異なる全国大会で優秀な成績を残した。特徴的な振り付けや構成で思いを表現。創作ダンス界に、岡崎の名をとろかせた。

（犬塚誠）

岡崎女子大・岡崎女子短大は、9月に富山県高岡市で開かれた少人数による創作ダンス



入賞を喜ぶ岡崎女子大・岡崎女子短大のメンバー（後列）と、光ヶ丘女子の部員

岡崎市役所で

コンクールに5人が出場。2年連続で最高位の「松本千代栄賞」を受賞した。

タイトルは「犯人は3階に居るかもしれない」。ミステリー小説の題名から着想を得た。舞台上には古びた洋館を思わせる階段などを設置。邸内に殺人犯がいると思込んだ人々の大騒動を表現した。部員は帽子を目深に被るなどして、ミニテリアスな雰囲気を出し、スピード感ある動きやドラマチックな構成が評価を受けた。

3年の村本多香奈部長は「受賞できてうれしいし、感謝の気持ちでいっぱい。5人の意見を取り入れながら、良い作品ができた」と笑顔を見せた。

光ヶ丘女子高は、8月に神戸市で行われた「第35回全日本高校・大学ダンスフェスティ

バル（神戸）」の創作コンクール部門高校の部に30人で参加。昨年に続き、3位に相当する「日本女子体育連盟会長賞」を勝ち取った。

一宮市出身の洋画家・三岸節子さん（故人）が描いた「赤い花」をイメージした演出で勝負。さまざまな色を塗り重ねる三岸作品の特徴を再現した。各部員で異なる振りや肉体を重ねる動きを通して、舞台上に「大輪」を映かせた。赤色の衣装も自分たちで染めるなどして制作した。

3年の井上百々花部長は「昨年と同様の3位を取れてうれしかったし、踊った後に作品が『見えた』。課題を乗り越えた末の作品だった」と振り返った。